

## 甚大な被害を経験した地域が、 災害体験を糧に新たな取り組みを 始めた自主防災組織の活動内容

広島市安佐北区落合学区自主防災会連合会  
連合会長 柳迫 長三



私たち広島市安佐北区落合学区は、平成26年「8.20広島豪雨災害」や平成30年7月発生した「西日本豪雨災害」被災地に隣接しておりますが、直接被害は発生しておりません。また私自身若い時、消防士として、火災現場や交通事故現場などの救助活動の経験から、個人の防災意識や知識の向上を図るとともに、地域を構成する各種団体の連携による災害弱者への支援は大変重要と考えています。そうしたことから、平成26年の「広島豪雨災害」を機に、落合学区自主防災活動を、地域住民が密接に連携した組織に改編し災害に強い地域づくりを目指すことにしました。

まず始めたことは、人づくりと組織づくりです。

### 1 防災人づくり

#### ①防災委員会の編成

これまでの、町内会自治会役員が自主防災会役員を兼務する規約であったため継続的な防災活動ができていなかった反省から、次のような組織づくりとしました。

町内会・自治会へ回覧板を回し、地域で防災活動に関心のある方、さらに会社で防災に関する業務である方や防災部署に所属している方を募集し、「防災委員」に任命しました。



土石流で被災した家屋（安佐北区口田南）

また、自主防災会役員に「防災士」の資格取得を推薦し、現役世代で構成した若い方や女性（40才～60才代）で組織化を目指しました。

現在では「防災士」14名、女性6名、学生5名が構成し、組織の活性化と組織の一新を図りました。これまでの自治会・町内会役員は、自主防災組織の助言・監視任務と致しました。

#### ②落合小学校6年生を対象に防災教育

校長先生にお願ひし、落合小学校6年生に年間40時間防災学習を行い、学年末に保護者、防災関係者、地域の方を招き、防災フェスティバルとして学習発表会を行っています。

#### ③キッズ防災士の養成

一般社団法人ひろしま防災減災支援協会へ依頼し、小学生・中学生対象に「キッズ防災士」の養成講座を始めました。

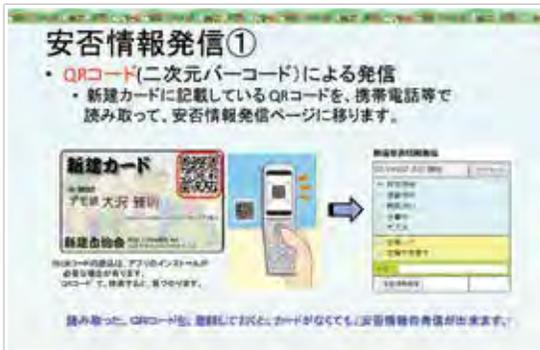
### 2 組織づくり

#### ①落合学区の防災活動・福祉活動を自主防災会連合会が主体となり進める。

落合学区の防災活動、特に避難所運営や災害時の要支援者支援体制の充実を図るため、町内会自治会連合会長と協議して、自主防災会連合会が「安否確認システム」を学区全体に導入し、学区住民の人命の確保と福祉の充実を中心となって進める。



落合小学校防災教育（防災工作）



安否確認システムの説明画面



令和4年度の防災訓練で運用した安否確認システム

## ②各防災行政の窓口や専門機関・地域の福祉施設、

### 広島大学防災減災研究センターと広島工業

大学防災減災教育研究推進センターと連携を取りながら進めています。例えば、広島工業大学（防災減災教育研究推進センター）と連携したシステムでは、AIを活用し避難者の管理が簡単にできるシステムを導入した訓練や避難者の体調管理をスマートウォッチを活用したシステムを構築し、令和4年10月の防災訓練で導入しました。

## ③一時避難所の指定と協定の締結

当落合学区は、地域の中心部を流れる落合川の南北にそれぞれ一時避難所を設けることとし、北側の中規模商業施設「エディオン高陽店」と南側の「J A 広島落合支店」に、緊急時の「逃げ込み施設」として応援協定を締結した。

## ④避難者の送迎を大規模商業施設の「フジ高陽店」

### 送迎用マイクロバスを利用する。

大規模商業施設「フジ高陽店」が運行する買い物客用の送迎マイクロバスを、台風接近時（特に避難レベル3）、住民を載せたまま近くの指定避難所に停車してもらった協定を締結しました。

## ⑤大型近隣公園を災害時の防災キャンプ場として

### 指定した。

近年は自家用車で避難する方が多いことから、公園を管理する行政に相談し、災害時公園の駐車場を開放し、近隣公園内の芝生広場を避難用キャンプ場所として、個人テントを活用した避難生活ができよう了解を得た。役員はキャンプ場を巡回し、避難者の把握や管理を行いや

すくなった。

## ⑥小規模緊急避難場所連絡協議会と私達落合学区自主防災会連合会が連携して進めています。

## 3 成果

①落合学区自主防災会連合会は、「防災委員会」が中心に活動することから、各防災委員の自覚が芽生え、取り組み姿勢が積極的になっています。現状防災訓練を見ると、自分たちで計画から実施・反省まで計画し進めています。

②落合学区自主防災会は、防災や福祉関係まで横のつながりを強化し、落合学区町内会自治会連合会の先導役として活動しています。

③落合学区自主防災会は、落合学区の防災活動を聞きつけた近隣の自主防災会連合会から、「参考にしたいので指導して欲しい。」との依頼が来るほどになり、また安否確認システムは近隣自主防災会でも普及し始めました。

④落合学区自主防災会連合会が主催する防災訓練では、中学生が防災士の資格を取得し住民を指導する姿が現れてきました。

現状コロナ禍ではありますが、毎年繰り返し防災研修会を開催することで、多数の住民が興味を示しておられます。今後も落合学区防災委員が中心となり、一層の防災活動を進めていきます。

「安否確認システム」や「IoT」を使った避難所運営の効率について詳しい話が聞きたい方は遠慮なく、ご連絡ください。